公益財団法人 旭硝子財団
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F
Tel 03-5275-0620　Fax 03-5275-0871
E-mail: post@af-info.or.jp　URL: http://www.af-info.or.jp

ニュースリリース

2018 年 9 月 7 日

公益財団法人 旭硝子財団
第 27 回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

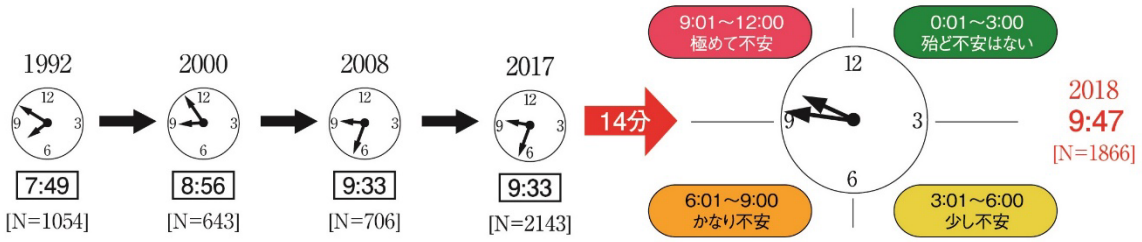
- 世界全体の平均危機時刻は 9 時 47 分で、1992 年の調査開始以来最も針が進んだ。
- 危機意識が最も高い地域は北米、次いで西欧、オセアニアと続く。逆に最も低いのは東欧・旧ソ連。
- 世代別では、20 代・30 代の危機時刻が初めて全世代を通して唯一 10 時に突入。
- 危機時刻を決める上で念頭に置く項目は 2011 年以来一貫して「気候変動」が最多。
- 環境に対する項目ごとの危機感を時刻からみると、「食糧」が最も高い。

公益財団法人旭硝子財団（理事長：石村和彦）は、1992 年より、毎年、世界の環境有識者を対象に環境アンケート調査を実施しております。今年は世界 205 カ国に調査票を送付し、139 カ国 1,866 名から回答を頂きました。以下に本年度の調査結果の要点を発表致します。（調査結果の詳細は「第 27 回地球環境問題と人類の存続に関するアンケート調査報告書」に記載してお手元にお届けすると共に、9 月 7 日午前 11 時より財団ウェブサイトでもご覧になれます）

１． 環境危機時計®～人類存続の危機に対する認識

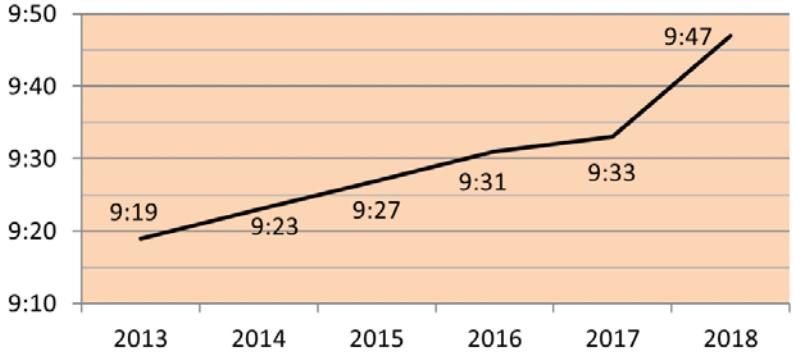
1-1 環境危機時刻

・全回答者の平均危機時刻は昨年より 14 分進んで 9 時 47 分を示し、1992 年の調査開始以来最も針が進んだ。



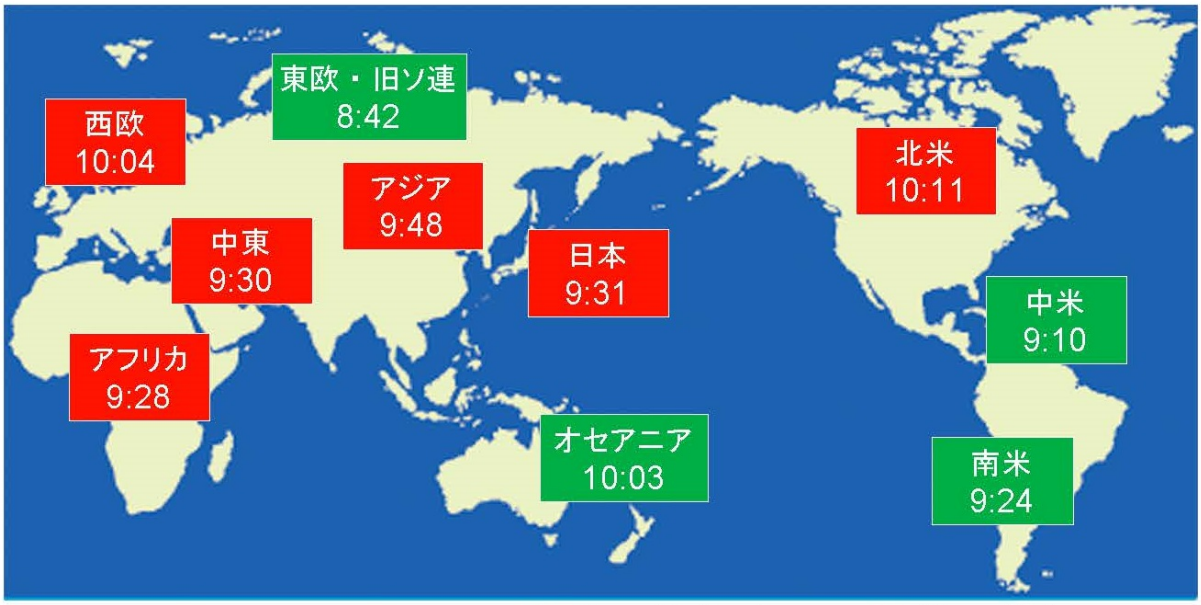
危機時刻経年変化（全世界）

・2013 年以降、危機時刻は進み続け、今年は 2013 年と比べて針が 28 分進んでいる。



過去 6 年間の危機時刻経年変化（全世界）

・調査 10 地域の内 6 地域（日本、アジア、北米、西欧、アフリカ、中東）で針が進み、他の 4 地域（オセアニア、南米、中米、東欧・旧ソ連）で針が後退。
・昨年の危機時刻と比べると、回答者数の多い日本（9 時 11 分→9 時 31 分）、中国（10 時 07 分→10 時 34 分）で針が大幅に進み、危機意識が高まっている。
・東欧・旧ソ連は針が昨年よりさらに後退し、唯一 8 時台（「かなり不安」）の領域に留まっている。2013 年（9 時 48 分）と比べると、約 1 時間時刻が後退。
・東欧・旧ソ連を除くすべての地域は「極めて不安」の領域。危機感が最も高いのは 10 時台の北米、西欧、オセアニア。西欧も調査開始以来初めて 10 時台に突入。



■は昨年より時刻が進んだ地域・国　■は昨年より時刻が戻った地域・国

・調査開始以降の世界全体の危機時刻の推移では、1996 年以降、2000 年を除いて常に 9 時台の「極めて不安」領域を示している。

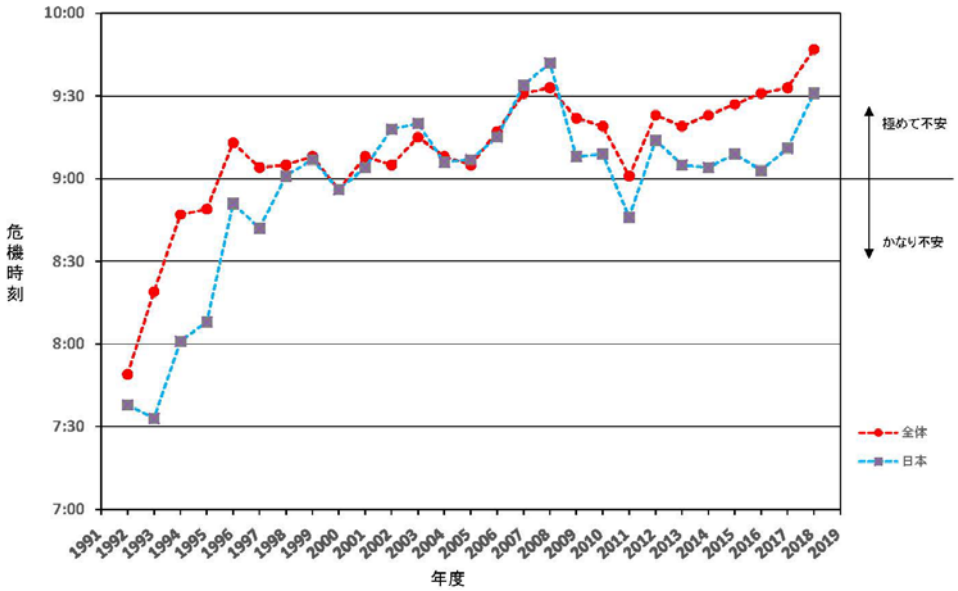
（全体）

1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
7:49	8:19	8:47	8:49	9:13	9:04	9:05	9:08	8:56	9:08	9:05	9:15	9:08	9:05	9:17	9:31	9:33	9:22	9:19	9:01	9:23	9:19	9:23	9:27	9:31	9:33	9:47

調査開始以来、■は危機感が最も低く、■は最も高い

環境危機時刻の推移

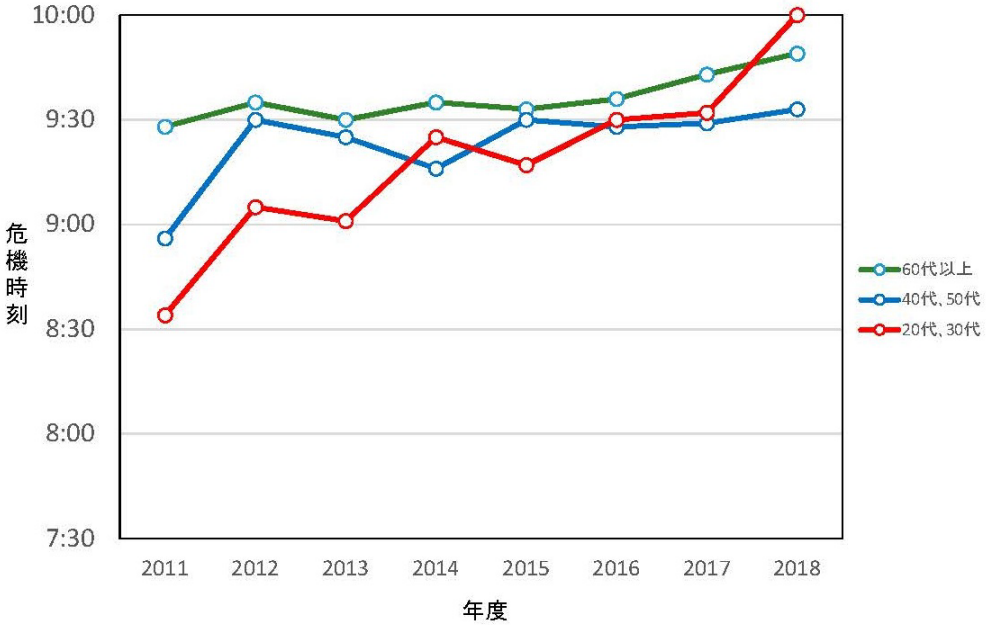
・世界全体と日本の危機時刻を比較すると、2016 年（世界 9:31、日本 9:01）には、日本は世界と 30 分の差があったが、昨年、今年と針が進み、16 分に短縮。



1992 年以降の世界と日本の経年変化比較

1-2　回答者の年代層による環境危機時刻の推移（2011 年～2018 年）

・すべての年代において危機時刻が進むと同時に、どの年代もこれ迄で最も針が進んでいる。
・2011 年の調査開始から昨年までは、60 代以上の回答者の危機時刻が最も進んでいたが、今年は初めて 20 代・30 代の若い世代の時刻が 60 代より進み、環境意識の高まりがみられる。
・20 代・30 代の針の進み幅が大きく、調査開始以来、初めて 10 時に突入した。



危機時刻世代別推移

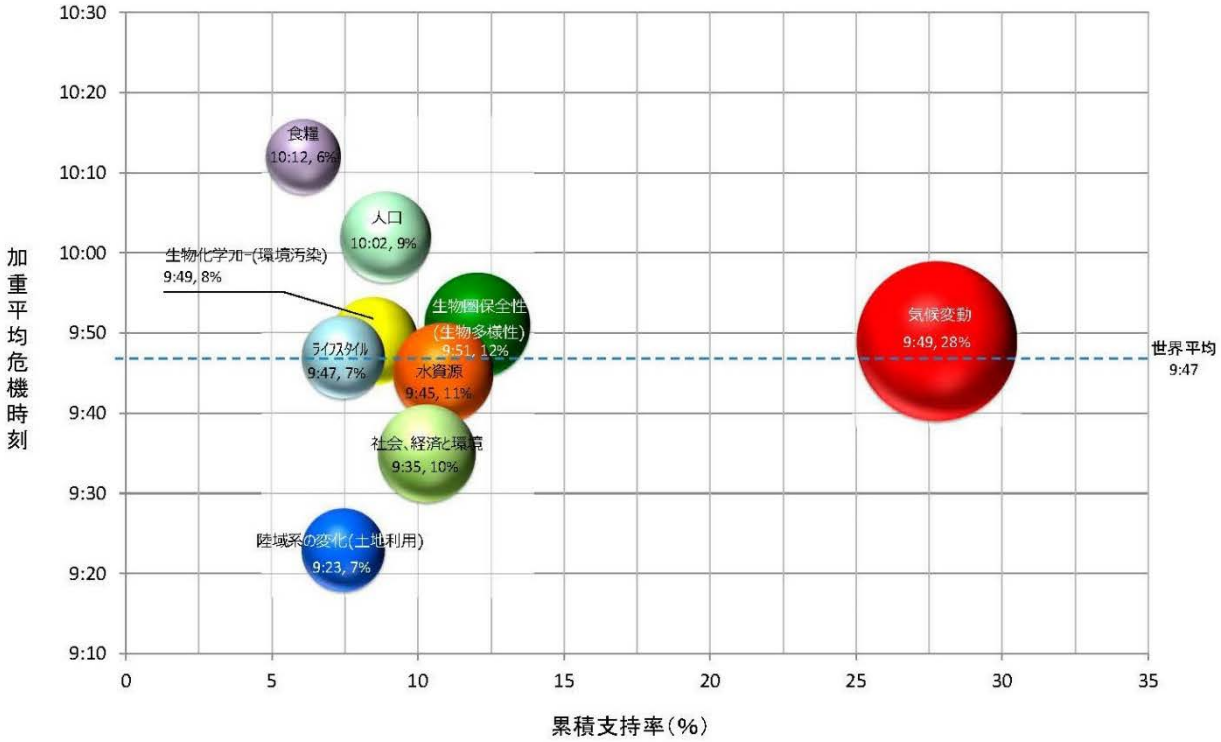
2. 危機時刻記入にあたって念頭においた「地球環境の変化を示す項目」（全体）

本調査は、危機時刻を決める上で、次の「地球環境の変化を示す 9 項目」から、回答者が住む国または地域において最も深刻だと思われる環境問題を 1 位～3 位で選んでいただいた。（詳しくは調査報告書参照）

念頭においた 9 項目：
1. 気候変動、2. 生物圏保全性（生物多様性）、3. 陸域系の変化（土地利用）4. 生物化学フロー（環境汚染）、5. 水資源、6. 人口、7. 食糧、8. ライフスタイル、9. 社会、経済と環境（2016 年度までの「温暖化対策」、「環境と経済」「環境と社会」を統合）

2-1 危機時刻の順位

・危機時刻の順位では昨年とは異なる結果が出た。昨年 2 位だった「食糧」が 10 時 12 分でトップとなり、「人口」が 10 時 2 分の 2 位、昨年最も高かった「生物圏保全性（生物多様性）」は 9 時 51 分で 3 位となった。
・項目ごとの危機時刻が 10 時台に突入したのは初めて。（2012 年に「1 位～3 位」選択調査を開始）
・「食糧」は 2016 年には唯一 8 時台で最下位だったが、過去 2 年で針が 1 時間以上も進み危機意識が最も高まっている。
・「気候変動」は「地球環境の変化を示す項目」の選択率では 1 位を占めたが、危機時刻では 4 番目に留まっている。



念頭に置いた地球環境の変化を示す項目（第１～３位選択）の分布図

＜　地球環境の変化を示す項目の危機時刻の地域分布に関する詳細は報告書 13 頁に記載　＞

2-2 各地域の地球環境の変化を示す項目の選択傾向

- 世界全体では、1位から3位に選ばれたのは、「気候変動」が27.8%で最多数を占め、次いで12.0%の「生物圏保全性（生物多様性）」、10.8%の「水資源」の順位となっている。
- 一方、中東では「水資源」、南米は「陸域系の変化（土地利用)）、インドでは「人口」が一位を占め、地域の実情を反映している。

＜　地球環境の変化を示す項目の選択傾向に関する詳細は報告書 12 頁に記載　＞

なお本調査は回答者から世界各国における環境問題の実情やご意見、改善策を記入して頂く自由記述欄を設けております。今年は海外 105 カ国、526 件、国内 297 件の合計 823 件のご意見を頂きました。自由記述は問２へのご意見と共に 9 月 7 日午前 11 時より財団ウェブサイトに掲載致します。

なお、財団ウェブサイトをリニューアルし閲覧し易くいたしました。ぜひ、ご参照ください。

本件に関するお問い合わせ先

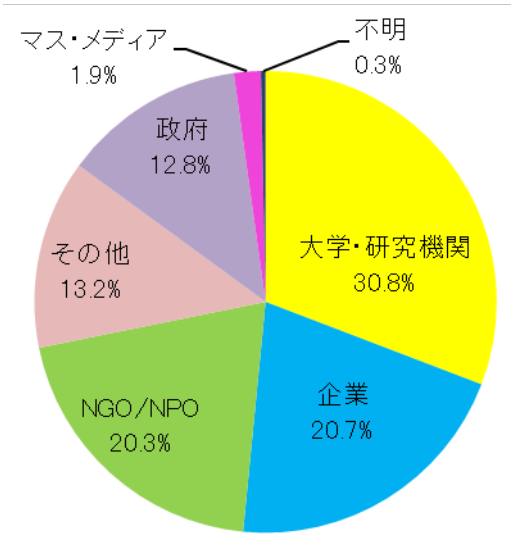
公益財団法人旭硝子財団　顕彰事業部長　清水潤一
〒102-0081 東京都千代田区四番町５－３サイエンスプラザ２階
Tel: 03-5275-0620　　Fax: 03-5275-0871　e-mail: post@af-info.or.jp　　URL: http://www.af-info.or.jp

添付資料

●「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」について

旭硝子財団は、1992 年以来、世界各国の政府･自治体、非政府組織、大学や研究機関、企業、マス・メディア等で環境問題に携わる有識者の方々が、環境問題に対する様々な取り組みについてどのように認識しているかを明らかにするアンケート調査を行っています。毎年４月に調査票を送付し、６月までに回答を得、世界各地域のご意見を比較･分析して９月に調査結果を発表しています。調査票は日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語の６カ国語で作成しております。

本年度は日本を含め 205 カ国に調査票を送付し 139 カ国から回答を得ました。回答者の属性別比率は、多い順から大学・研究機関、企業、非政府系組織、中央政府・地方自治体、マス・メディアとなっております。



調査票送付国数

地域	国数
アジア	24
オセアニア	15
北米	2
中米	22
南米	12
西欧	33
アフリカ	53
中東	15
東欧・旧ソ連	28
日本	1
合計国数	205

●本年度の調査概要

調 査 時 期： 2018年4月から6月
調 査 対 象： 世界各国の政府・自治体、非政府組織、大学・研究機関、企業、マス・メディア等で環境問題に携わる有識者（旭硝子財団保有データベースに基づく）
送　付　数： 24,472 (海外 23,269 + 国内1,203)
回　収　数： 1,866
回　収　率： 7.6%

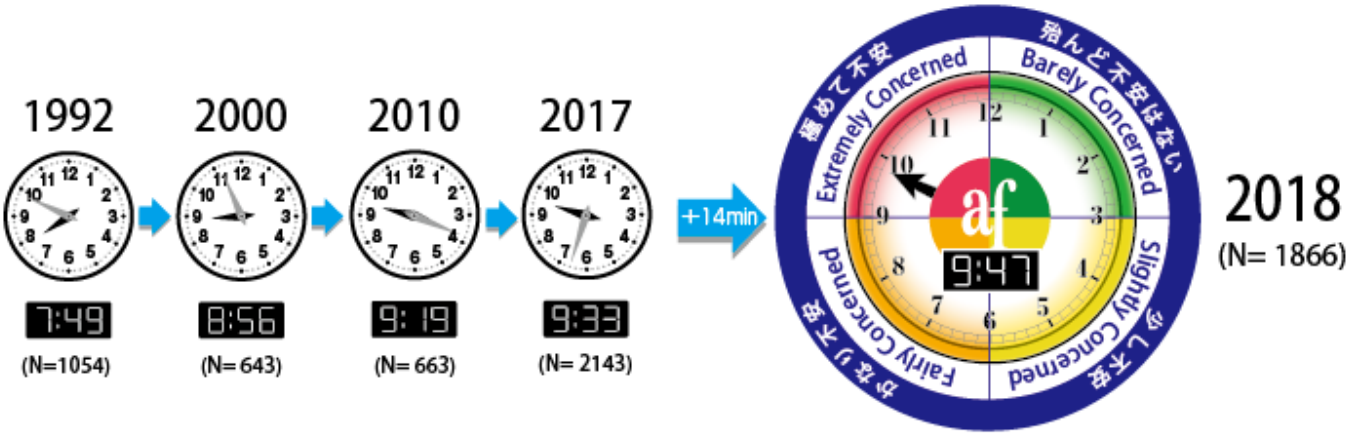
地域別の回収結果:

【地域】	回収数	%
日本	389	20.8
海外	1477	79.2
全世界　合計	1866	100.00
アジア（日本含む）	1138	61.0
オセアニア	61	3.3
北米	184	9.9
中米	38	2.0
南米	77	4.1
西欧	171	9.2
アフリカ	78	4.2
中東	38	2.0
東欧･旧ソ連	60	3.2
不明	21	1.1
全世界　合計	1866	100.00

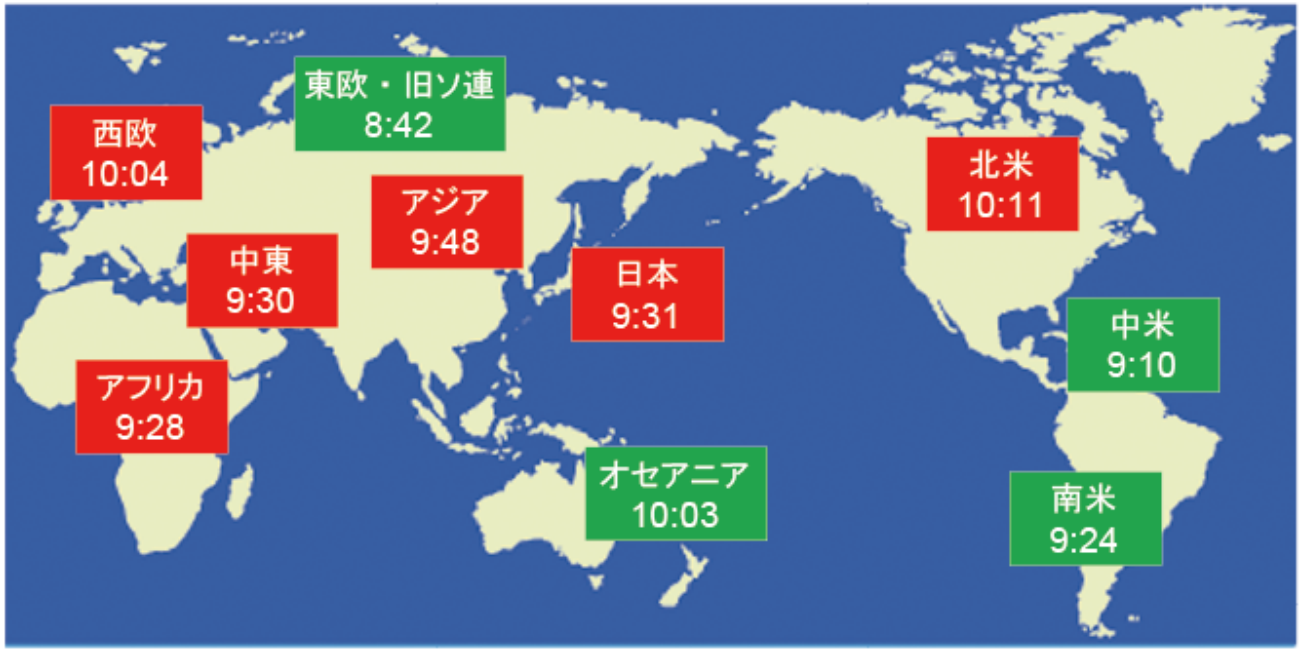
環境危機時計®

地球環境の悪化に伴って回答者が人類存続に対して抱く危機感を，時計の針で表示する「環境危機時計®」を独自に設定し，毎年危機感の認識調査をしています。

環境危機時刻の経年変化



各地域の危機時刻



■は昨年より時刻が進んだ地域・国　■は昨年より時刻が戻った地域・国

※環境危機時計®を含む「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の調査結果、報告書は旭硝子財団ホームページに掲載しています。http://www.af-info.or.jp

af 公益財団法人 旭硝子財団
THE ASAHI GLASS FOUNDATION